



# 動物レスキュー通信

2014年2月 第9号 (平成26年2月1日発行)

発行元  
一般財団法人 国連世界動物救済支援機構 詩月財団

詩月(しづく) : 詩月財団 理事長  
愛玩動物飼養管理士 一級  
お問い合わせ : sizuku.foundation@gmail.com

## ワンちゃんの病気種類、症状、予防



近頃はとも寒い日があったり暖かい日があったりと、健康管理が大変な日が続いています。インフルエンザやノロウイルスの集団感染など、病気に気を付けなくてはなりません。フレンチブルドッグにおいて、もウィルス感染や飼育環境が良くなった事による高齢化など、病気は避けて通れない問題となっています。そこで今回はワンちゃんの代表的な病気とその予防法をテーマにまとめて行きたいと思えます。ワンちゃんの一生は人の五分の一よりも短く、臓器ももちろん人よりも小さいです。小型犬の子犬においては成人の100分の1にも満たない大きさです。そのため病気の進行も早いので、予防対策はもちろんなこと早期発見がとて大切になります。病気の特徴や症状など頭に入れておけば、早期発見早期治療が可能となり、ワンちゃんが健康で長生きできるはずですよ。

### 代表的な病気と症状

心臓弁膜症(高齢の小型犬に多くみられる病気で、散歩で歩かなくなったり、軽い運動や興奮した後などに咳が出たしたら要注意です。早急に獣医さんに診てもらい、必要があれば適切な治療を受けさせてあげてください。進行してしまつと呼吸困難となり最悪の結果を招く事になります) 心筋症(大型犬に多くみられる病気で、散歩中に歩行が止まってしまつたり、息づかいが荒くなつたりします。運動制限をし、興奮しすぎないようにしてあげてください。徐々に進行し心不全になつてしまつ可能性がありますので、早めに獣医さんに診てもら

つて下さい) フィリア症(フィリアの感染子虫がいる蚊に刺されると引き起こされ、最終的には死に至つてしまいます。しかしこの病気は動物病院で処方されるフィリアの予防薬を飲ませてあげることです。投与期間は地域によって異なりますが、基本的に南の地域では平均気温が高く蚊の生息期間が長いので長期間となります。狂犬病(狂犬病ウイルスに感染したワンちゃんにかまれる事により、ウイルスが脳に侵入します。1-3ヶ月の潜伏期間を経て発症し、興奮、けいれんを起こして死に至つてしまいます。みなさんはもちろん受けていたつしやるべきですが、日本ではこの狂犬病の予防接種、必ず年に一回受ける事は義務付けられています。ちなみに日本でワンちゃんと共に生活する上で義務付けられている事をあげておきます。①居住地の市町村に飼犬の登録をする②飼犬に年に一回の狂犬病予防注射を受けさせる③犬の鑑札と注射済表を飼犬に装着する。この三点です。軟口蓋下垂(なごうがいがくさい)(ブルドッグ、バグ、シーソーなどの鼻の短い犬に多くみられる病気で、呼吸時にハーハーという音が発生します。病気が進行してしまつと呼吸性呼吸困難が起り、声帯がはれて声が出せたり、鳴く事が出来なくなつてしまつたので、早めに獣医さんに診てもらつてあげてください。気管支炎(肺炎)様々なウイルスによる感染や寄生虫の寄生により引き起こされます。熱が出てくつたり、元気がなくなり、咳をしたたりタンを吐いたりします。刺激の強い化学薬品やガスなどの毒物を吸引する事で引き起こされる場合もありますので、

危険なものはワンちゃんの手の届かない所にしまつておいてあげてください) 口腔腫瘍(口の中の様々な部分、舌、歯肉、口唇、口蓋、咽頭などに見られ、良性のものから悪性の物まで様々です。高齢のワンちゃんでは悪性の腫瘍である事が多いようです。症状としては歯肉が異常に盛り上がり、出血、口臭などが見られ、徐々に進行するにつれ口が閉じられなくなつたり、よだれが垂れたり、痛みを伴う場合口には食事が出来なくなつてしまつます。普段と違う事を感じたらいち早く獣医さんに診てもらつてあげてください) 胃拡張・胃捻転症候群(ゴールデン・レトリバー、シェパード、ボーダー・ドッグ、グレート・ピルニア、イングリッシュ・セター、秋田犬などの大型のワンちゃんに起こりやすい病気で、食後数時間以内起こる事が多く、吐く動作を繰り返しても何も出せずに、苦しそうな姿勢で歩きまわります。もちろん獣医さんに診てもらわないといけません。予防策としては一度にたくさん食べさせない事、そして食後すぐに過激な運動をさせない事です) 様々な病気をあげてきましたが、これら以外にもワンちゃんに起こり得る病気はまだまだまだたくさんあります。人間の生活と同じように、ワンちゃんを取り巻く環境や生活は驚くほど変化してきました。栄養バランスのとれたドッグフードの普及や、室内飼育の増加などによる生活環境の変化、獣医学の進歩などを背景に、ワンちゃんの寿命は劇的に延びるとともに、高齢化が進んでいます。それに伴い肥満から来る生活習慣病もあり、これが原因で様々な重篤な病気を引き起こしているという事もあります。普段から愛犬の健康管理に気を配り、小さな変化を敏感に感じ取れるように十分なスキンシップ、「ミニマックス」をとり、おかしくと感じればすぐに獣医さんへ。人間と同じく、どんな病気で、も早期発見、早期治療が大切です。

詩月財団では、今後もワンちゃん、ネコちゃんに関する情報を発信し、良好な関係を築くお手伝いをし、不幸な命を減らすよう努力してまいります。(詩月)